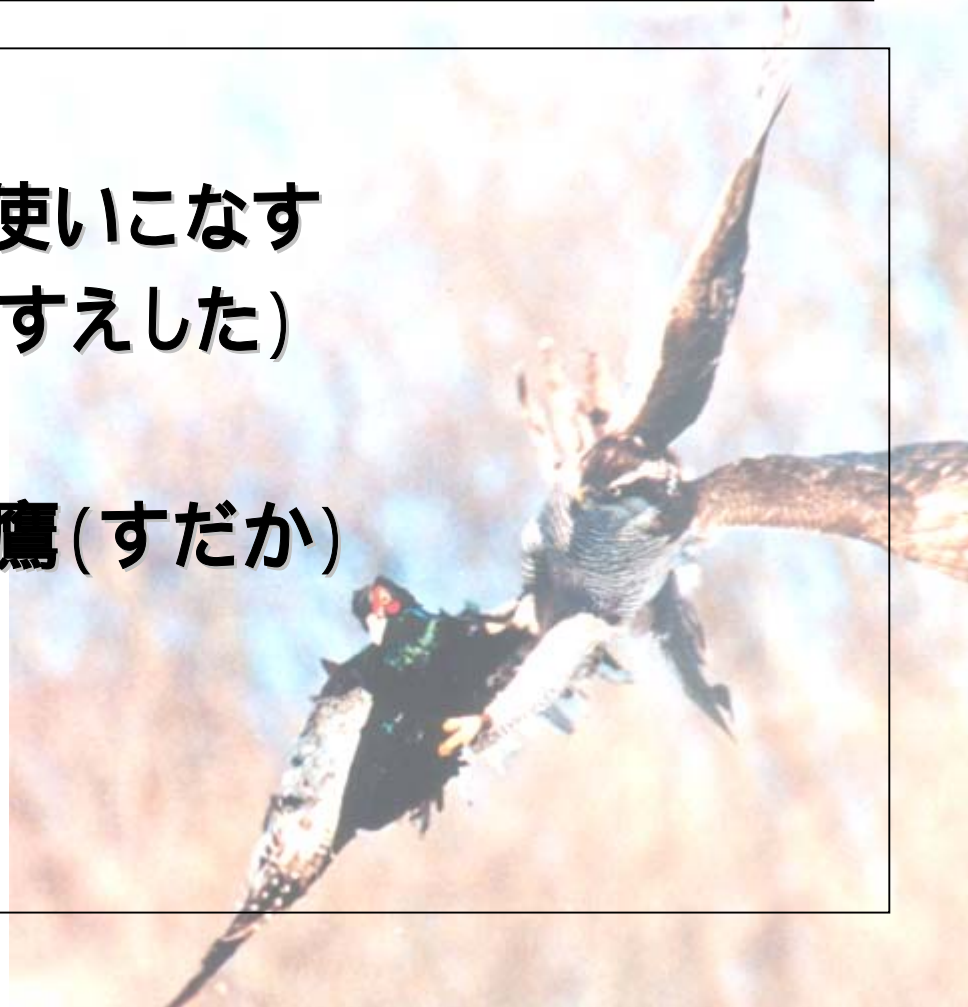


猛禽類のトレーニングの特徴

NPO法人日本放鷹協会 波多野幾也

1. 鷹を主人と違って
2. 懐けて、仕込んで、使いこなす
3. 肉色(しし)と据下(すえした)
4. 腹の入れ替え
5. 網掛(あがけ)と巢鷹(すだか)
6. 丸い鷹
7. 問題行動

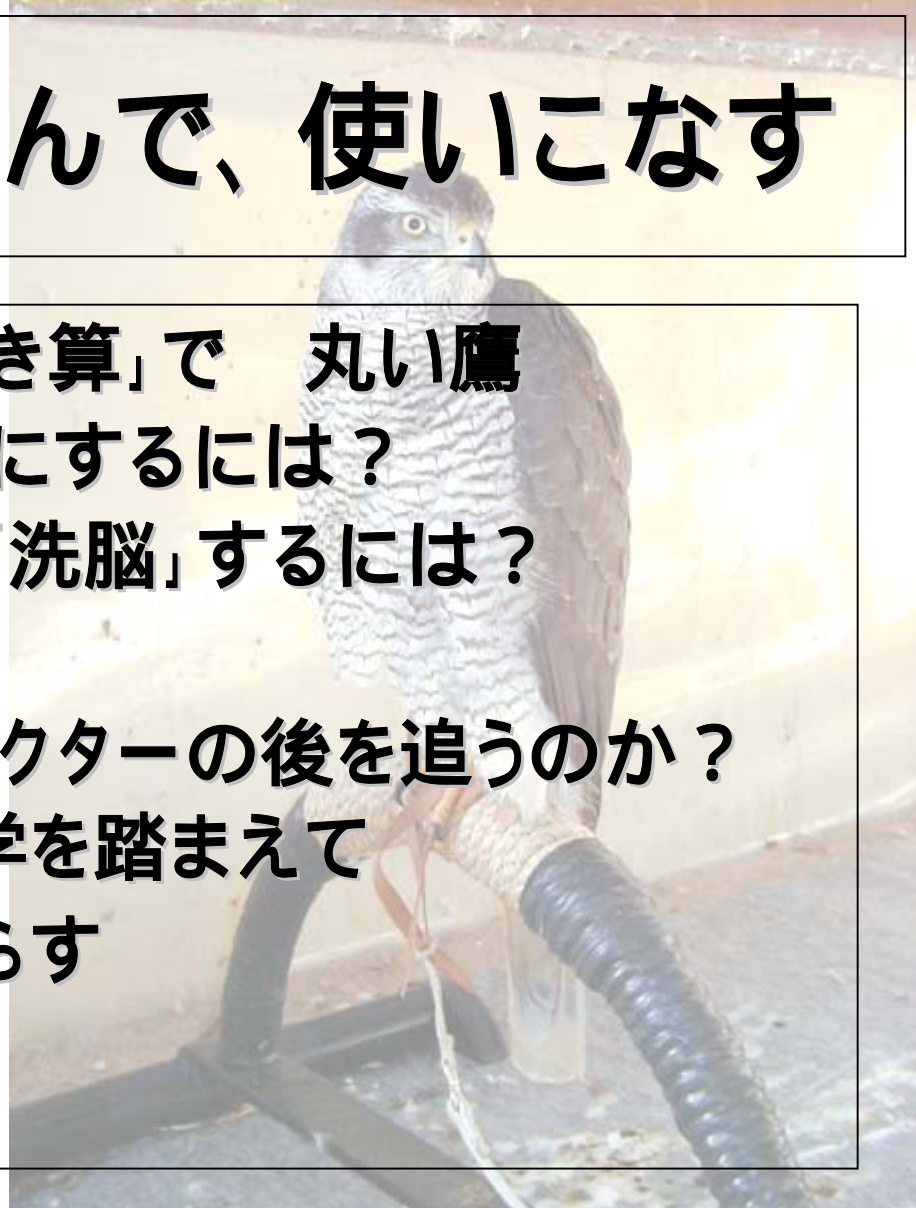


1. 鷹を主人と思って

- 捕食性 / 社会性 / 物理的コントロール
 - やらせたいことを鷹がやるように仕向けて強化
鷹がやりたがらないことはやらせようとしない
 - 生得性 刷り込み 社会化 学習
- ! 本当に中立な行動は存在しない
行動内在性強化子(強化内在行動)

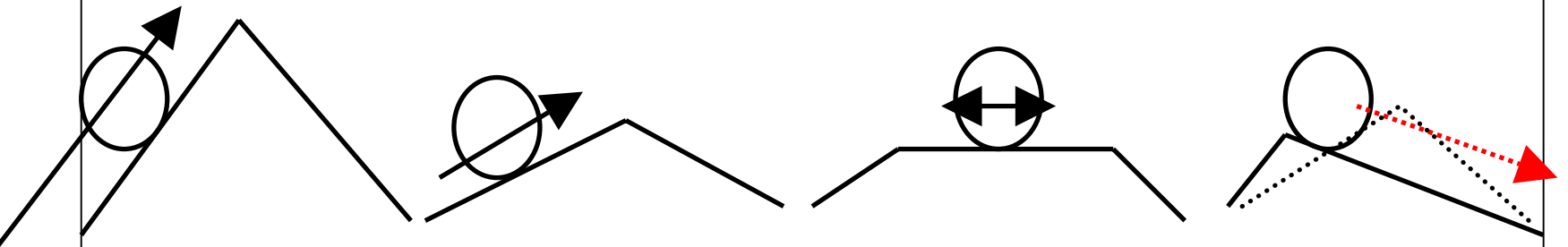
2. 懐けて、仕込んで、使いこなす

- ゴールを理解して「引き算」で 丸い鷹
- 嫌悪刺激を好性刺激にするには？
= 「洗脳」するには？
- お約束の確立
なぜサギはトラクターの後を追うのか？
- small step は航空力学を踏まえて
- fitness が自信をもたらす
- 「判ってらっしゃる」感



3. 肉色(しし)と据下(すえした)

- 太り加減と体重
- 「葛藤」は嫌悪刺激である！
- 「尾根と岩」モデル 価値観の逆転
- hot zone と problem zone 「視野」の問題
- house と home と away



4. 腹の入れ替え

- 代謝の管理 「腰が重い / 軽い」
- 野生の鷹は荒天時は飛ばない
- どうやって悪循環から好循環へ？
軽い弾み車のほうが回し始めるのが楽
- 体重変化と精神状態変化の時間差

5. 網掛(あがけ)と巣鷹(すだか)

元は捕獲時の日齢・・・白っ子、二符見せ、巣周り、網掛、山帰り、野晒鷹・・・

- 何に刷り込まれているか？
アイデンティティ的 / 性的
- 何に社会化されているか？
- どんな学習歴があるか？
つまりは 可塑性の大小



と 視野

6. 丸い鷹

- 「欠点 = 問題行動」が少ない鷹
- 網掛だと hot にはなりにくいが出やすい
problem が出やすい
体重は低め(上げられない)
- 巣鷹だと problem は出にくいが出やすい
hot になりやすい
体重は高め(下げられない)

7. 問題行動 1

- 「取扱者が問題だと感じる行動」
動物の視点から見ているわけではない
 1. 取扱者が認識を変える = 諦める
 2. 物理的に制限する
 3. 動物を変える
 4. 動物の変化を待つ同じ「何もしない」対応でも1か4かで意味は異なる

7. 問題行動 2

- **網掛は視野が広い ノイズに弱い**
降りてこない、持ち逃げしやすい
体重を上げられない 遅い、力がない
極度のawayだと衰弱させかねない
- **巣鷹は視野が狭い ノイズ変化に弱い**
攻撃行動、餌鳴き、羽杖、居ずまい
体重は下げられない
awayに連れて行く事前準備が難しい

7. 問題行動 3

- 冷や飯で降りてこない。いつ鳩を出すか？
「待っていたら鳩が出てくる」学習はさせたくない
- 合図への反応は素早いほど良いのか？
「障害要因が見えていてなお素早い」のか？
「障害要因が見えていないだけ」なのか？
「判ってらっしゃる」のか？

7. 問題行動 4

- 問題行動の芽を摘むか摘まないか？
! いずれ出る行動、一生出させずにすむ行動
- 良い経験 悪い経験 どちらも経験
- いずれ出る悪い経験は
さっさと弱化または消去しておくべき
- うまく扱えば一生出ない悪い行動は
機会を与えないのが良い

7. 問題行動 5

- 葛藤レベル と 良いストレス / 悪いストレス
 - 修正はほどほどに 行き過ぎると別の問題
- cf. 巢鷹は足が硬いが持ち出さない、
網掛は足は柔らかいが持ち出しやすい
- 状況次第で良い行動か問題行動かは変わる
- cf. 鷹匠が接近するのならその場においてほしい。
キツネが来たら逃げて欲しい

7. 問題行動 6

- 視野 解発因の閾値 アフォーダンスの変化
cf. アシカ、オットセイ、セキセイインコの発情
- 生得的なプリセットの強弱
一口食べるために
何回狩りをしなければならないか？
- 水路付け “適切な” 対象に導く
cf. イルカの吐き戻し、ネコのじゃれつき

余談 理屈と経験

- 海獣トレーニング経験のない鷹匠の理屈が海獣トレーニングに役立つのか？
- トレーニングには時間がかかるが人生は短い
- 経験ゼロではまずいが理屈ゼロでは効率が悪い
少ない経験から如何に多くを学ぶか？

- ちなみに、猛禽とひとくくりと言っても約300種
毎度、未経験のようなもの

鷹を主人と思って(再)

- やらせたいことを鷹がやるように仕向けて強化
鷹がやりたがらないことはやらせようとしない
cf. 据え上げ
- 行動内在性強化子(強化内在行動)
- 「動物の主観」を理解し利用する

動物の主観 1

- 学習心理学の「科学性」の危うさ
cf. ファインマンの指摘
- 「実験の統制 / ベースライン作り」自体が
ヒトの論理に依拠
タイムアウトは消去手続か弱化学手続か？
- 生物学的制約や本能逸脱の中身が重要！
- かといって、
単なる妄想・想像・擬人化はまずい……

動物の主観 2

- 種の論理(日高敏隆)
- ミジンコの都合(日高敏隆、坂田明)
- サルの了見(水原洋城)
- 4つのなぜ(ティンバーゲン)
 系統 / 個体発達 / 究極要因 / 至近要因
- ネコははみ出した新聞紙からは何度も落ちるが
 熱いストーブには二度と乗らない(加藤由子)

動物の主観 3

- 遺伝子の環境のせめぎ合い
- 遺伝子が想定している「行動セット」は、
現在観察される野生個体の行動とは異なる
- 自然環境は中立ではない
- 遺伝子はロスを見込んでいる
斜面にまっすぐな家を建てるには、
土台は不揃いでなければならない
- 自然が示すのは常に変奏であって、主題は裏に
隠されている(日高敏隆)

鷹を主人と違って(再々、終)

- 動物の主観をおおもとに
- 適切な刺激 / ストレス管理をした上での
- 内在性なものを含む刺激や結果による
強化や消去や弱化
- だが、ヒトの生得的な反応は異なる
- 生得的な傾向に反する条件付けを
自分自身を対象に行う
cf. スキー、スケート、馬術、岩登りetc.